

## 令和5年度 第1回南砺市立病院運営改革委員会

日時	令和5年8月23日(水) 19:00~20:00
場所	南砺市役所福光庁舎 3階 302会議室
出席者	○委員 9名 中山繁實、松本久介、長瀬啓介、山城清二、長瀬博文、金子利朗、 鍛冶本秀子、高橋佳寿江、羽場由美 ○市当局 14名 田中市長、齊藤副市長、松田地域包括医療ケア部長、松岩医療課長、 松本主幹、小原主査 南砺市民病院 清水院長、藤井事務局長、吉岡総務課長、南部医事課長 南砺中央病院 三浦院長、小又事務局長、南部総務課長、柴田医事課長 ※病院関係職員はZOOM会議参加 ○傍聴 1名 北日本新聞
欠席者	なし

### 1 開会 19:00

### 2 開会の挨拶 田中市長

### 3 委員等の紹介と委員長を選任

医療課長から各委員及び市当局職員の紹介を行った。本委員会設置要綱に基づき委員長を互選するため、医療課長から各委員に対し、立候補、推薦等の意見を求めたところ、高橋委員から円滑な議事進行のため事務局案があれば提示いただくよう意見が出された。医療課長から中山委員を委員長に推薦する事務局案を提示したところ、参加委員全員の拍手で承認された。その後、中山委員長の指名により松本委員が副委員長に就任した。

#### 4 協議事項

##### 「南砺市病院事業経営強化プランの策定スケジュールおよびプラン骨子（案）について」

医療課長から南砺市病院事業経営強化プランの骨子（案）等について説明を行った。説明後、中山委員長より各委員へ意見を求めたところ、以下のとおりであった。

委員	国からのひな形がない中で骨子の作成に苦労されたことと推察する。南砺市においては、何度も議論を重ね策定された将来ビジョンを踏まえ、病院の経営強化等を進めていかなくてはならない。今回事務局が示された骨子案は、このことを強く意識して作成されていると感じた。内容等はこれから詰めていくことになるが、骨子としては望ましい形である。
委員	経営強化プランからアクションプランまでを含め、大変よくまとまっている。将来ビジョンの上に今回の経営強化プラン等が策定されていることが明瞭であり分かりやすい。個人的には、南砺地域の高齢化が進む中でどのようにして地域包括ケアを維持していくのかという視点をもって、2病院だけでなく診療所群、訪問看護ステーション、介護施設等も含め、医療・介護人材をどう確保していくのかを検討していただきたい。2病院の経営強化にとどまらず、地域全体での連携強化というのがキーとなるものと考えている。
委員	事務局の説明にもあったとおり、砺波地域における地域医療構想調整会議が来週8月29日に開催予定である。今回は、医療機関毎に具体的な方針を説明いただくこととなっている。そこで話し合われる内容も踏まえ、この砺波医療圏内で市立2病院がどういった役割を担う病院となるのかを考えていただきたい。
委員	先日、南砺市民病院と南砺中央病院の看護部長と会談し、看護部として何ができるかについて話し合った。その中で限りある医療資源をどれだけ効率的に使うかが重要であり、また、南砺市内にある医療機関や訪問看護ステーションとの機能分化を推進し、急性期～回復期～慢性期～在宅まで患者を包括的に一貫して診られる体制が求められるとの認識を共有

した。その上で、次の3点について提案をさせていただきたい。

① 医療機関等間における人事交流

市立医療機関等を退職される医療従事者をなるべく市外に流出させないための施策が必要。医療機関・訪問看護ステーション間等での再就職等ができる体制を整えるためにも医療機関等間における人事交流を検討されたい。

② 医療機関等間での医療DX化（情報の共有化）

市内の医療機関等において、シームレスな連携が取れるよう市立病院と民間医療機関との情報共有化の推進を検討されたい。

③ 南砺市看護学生等修学資金貸与制度の拡充

若年層の看護職員等が市内に集まるよう市内の民間医療機関に就職した場合であっても、修学資金の返還免除ができるなど制度拡充を検討されたい。

次に、コロナ禍後、全国的に病院の病床稼働率が落ちていることを踏まえ、今後、市内の病院が経営悪化等により共倒れすることがないように、市内における医療需要をしっかりと把握した上で、病床の削減や機能分化を急ぐ必要がある。医療課が中心となって、強力に推し進めていただきたい。

最後に、本日、市から中央病院の介護療養病床を医療療養病床に転換予定とのお話をうかがった。砺波地域において、介護医療院は満床であるのに対し、医療療養病床はベッドに空きがある。こうした状況下において、なぜ介護療養病床を介護医療院ではなく医療療養病床に転換されるのかが分からない。理事長をはじめ、今回の報告については大変残念に感じている。

委員

私は介護現場で働いているが、介護度の高い方がなかなか受けたい医療が受けられないという現実があるように感じる。病院側の都合もあると思うが、こうした人が必要な医療を受けられる病院であってほしい。

委員

医師会としては今後も市立病院を支えるが、南砺市の病院が一番である必要はないと考えている。医療従事者が減って

	いく中で、砺波総合病院や市内の民間病院と機能分化を行いながら、それぞれが担うべき役割を担っていけば良い。
委員	一般市民の目線で考えると、市立2病院の経営がこの先成り立っていくのか不安を感じる。また、若い医療スタッフがいないということも非常に懸念しており、先ほど話題に上がった看護学生等に対する修学資金貸与制度の拡充を検討されたい。また、本来少しのお手伝いで入所者が生き活きと生活できる場であるはずのグループホームに要介護度4や5の方が入所している現実がある。こうした背景も踏まえ、市立病院が担うべき役割を検討していただきたい。

## 6 事務連絡

## 7 閉会